

知恩報恩

連載

私が大切にしている言葉

第36回

株式会社 なんつね

代表取締役社長 南 常之氏



知恩報恩とは、周りから受けている恩を知り、その恩に報いるという意味です。

天才的な刃物職人だった創業者が世界初の生肉用薄切り肉切断機を開発してから 90 余年、なんつねは社会から生かされてきました。別の視点で見ると、なんつねは社会に価値を提供し続けてきたとも言えます。

< 社会から生かされていることに感謝し、そしてその恩を社会に報いる > このサイクルを回せることが出来れば、企業は永続して社会貢献できると考えています。

また恩を知る深さを深めるほど、恩に報いる抽象度が高まります。なんつねは食肉加工機械製造業という抽象度から、食を生み出すプロセスに貢献するという社会インフラを支えると同時に、世界の食を豊かにするという人々の喜びや幸せに関わる事業を展開している稀有な存在へと抽象度を昇華させました。

その結果、食肉機械製造業だけに留まらず、ミートデリニクラウスを大阪の福島にオープンさせるなど食に深く関わる事業を展開しています。

これは、弊社が長年お世話になってきた町のお肉屋さんへの感謝の気持ちが起点となった事業です。受けている恩を深く知った結果、事業の抽象度を高めることが出来ました。

なんつねは知恩報恩を体現する企業として、これからも社会に価値を提供し続けます。

会社概要



- ◆ 本社所在地 大阪府藤井寺市大井 4-17-41
- ◆ 主要製品 食料品加工機械製造販売
食品工場設備等のコンサルタント
事業及びフードビジネス事業
- ◆ 創業 1929年(昭和4年)
- ◆ 資本金 1億円



この連載は、人それぞれが「大切にしている言葉」を、経営者のみならずさまざまな立場の方から、エピソードを交えてご紹介いただくものです。